

基礎合奏の進め方

基礎合奏、いろいろなやり方があると思いますが、ここでは、当ホームページで公開している『基礎合奏スケール』を利用して、基礎合奏のやり方の一例を書いていってみたいと思います。

基礎合奏をする目的はいろいろあると思いますが、ひとつは、音のブレンド。音が寄る、響きがとけあう。料理でいったらダシ汁づくり。コトコト煮込んで料理の元をつくります。個々人の鳴りも大切ですが、個々が鳴るだけで合奏としての響きのブレンドがないと、バンドはばらばらの音になってしまいます。各楽器の音をブレンドし、合奏としての響き、サウンドをつくります。

それから、音の流れやつながり、ハーモニーの響きや流れを感じる。個々が自分の音の流れを歌って（ソルフェージュ）いないと、ハーモニーは合ってきません。そういう、音の流れやハーモニーのつながりを捉えること。これも大きな目的です。

さらに、発音、基本的なアーティキュレーション、つまり音符のしゃべり方をそろえること。これも基礎合奏のひとつの目的ですね。

バランス練習

さて、バンドのチューニングができれば、基礎合奏スケールに入る前に、まず『バランス練習』をしてみましょう。ここではバンドの楽器を以下の4つのグループに分けます。

- Aグループは低音楽器。ファゴット、バスクラリネット、バリトンサックス、チューバ、コントラバス
- Bグループは中音楽器。アルトクラリネット、テナーサックス、ホルン、トロンボーン、ユーフォニアム
- Cグループは高音楽器。オーボエ、クラリネット2ndと3rd、アルトサックス、トランペット
- Dグループは最高音楽器。フルート、エスクラリネット、クラリネット1st

そのグループ分けで、チューニング音のBから始まるこの下の楽譜をやってみてください。メトロノームは4分音符60~80。ファゴットは第2線のBから、バスクラリネットは記譜の下第1線のドから、コントラバスは上のBから、アルトクラリネットは第2線のソから、アルトサックスとエスクラリネットは上のソから、クラリネットの1stは上加線2線のドから始めます。各グループ間のバランス、グループ内での音のブレンド感などを確認します。クレシェンド・ディミヌエンドは一体になるように。この楽譜はおぼえてしましましょう。

♩ = 60~80

The musical score is for a balance exercise in 4/4 time, key of B-flat major. It is divided into two systems. The first system shows the initial 8 measures, and the second system shows the final 4 measures. The instruments are grouped into D (Flute), C (Oboe), B (Alto Clarinet), A (Bass Clarinet), Snare Drum, and Bass Drum. The score includes dynamics like piano (p) and crescendo/decrescendo markings.

音階を歌ってみる

それから各調の音階に入っていきますが、まずハーモニー声部は使わず、全体で音階（上の段）をやってみます。各調最初の16小節です。合っていないと思ったら、全体で、楽器ではなく声で歌って合わせてみましょう。そのあともう一度楽器で合わせてみると…、かなり合ってきませんか？ 楽器任せにせず、個人がソルフェージュすることと、歌うという意識を持つことで楽器が響いてくることの効果だと思います。その違いを感じることに。

低音楽器に乗る

次に、低音の響きに乗る練習。各調最初の16小節。メトロノームは4分音符60~80。ハーモニーのベース音を吹いている楽器、バスクラリネット、バリトンサクソ、ファゴット、（ユーフォ）、チューバ、コントラバスは下の段のベース音を楽譜どおり1拍目から全音符で、そのほかの楽器は上の段の音階の音を3拍目から2分音符で吹きます。楽譜のように、低音の響きを聴いて、そこに溶け合わせるように音階の音を吹いていきます。

♩=60~80

また、3拍目から2分音符で入る楽器、木管楽器は上の段の音階、金管楽器は下の段のハーモニー、また、その逆などの練習もやってみましょう。

♩=60~80

主要3和音

次に、各調の終わりの5小節間のハーモニーの部分を使ってハーモニーを合わせる練習をします。メトロノームは4分音符60~80。まず、その5小節のうち、1小節目、2小節目、4小節目を使います。各調の主要3和音（I, IV, V）です。それぞれ、ハーモニーの根音、第5音、第3音を各パートで把握しておきます。それを楽譜に書き込んでおきましょう。

そして、1つの和音に2小節を使って、根音は1拍目から2小節目間、第5音は3拍目から6拍間、第3音は各2小節目のあたから全音符と、順番に入って重ねます。続いてハーモニーの5小節間を、音階のところでやったように低音の響きの上に乗る、低音から音を取る練習をします。低音は記譜通り全音符で、そのほかのハーモニー楽器は3拍目から2分音符で、下の楽譜のような要領です。このやり方も、おぼえてしまいましょう。

♩=60~80

1小節目 2小節目 4小節目

Low Wind

S. Dr.

B. Dr.

Low Wind

ティンパニーはチューバの音で

Timp.

S. Dr.

B. Dr.

また、この練習はハーモニーディレクターで音を鳴らしてからみんなで自分の音を歌ってみたり、ハーモニーディレクターで音を鳴らしてから吹いたりすることも有益です。もちろんハーモニーディレクターはその調の純正律に合わせます。短調、たとえば a moll は、CではなくAの純正律に合わせます。

各ハーモニーが純正に美しく合うように、また、響きをよくブレンドさせて、バンド全体をひとつの大きなオルガンのように響かせましょう。

サウンド練習

各調の終わり5小節間のハーモニーの部分、バランス練習でやったグループ分けで1つの和音に2小節を使って、バランス練習と同じ要領で譜例のように下から重ねていきます。先に鳴っている音の響きに乗るように、溶けこむように重ねていきます。編成によっては音の調節が必要になるかもしれません。

♩=60~80

D

C

B

A

S. Dr.

B. Dr.

発音練習

各調の終わりの5小節間のハーモニーの部分を使っておこないます。メトロノームは4分音符100~120。1つの和音に2小節を使って、以下のようにリズムの発音の練習をします。楽譜では4分音符ですが、この4分音符の部分、8分音符、3連符、16分音符、符点リズムなどにして練習します。

♩=100~120

ティンパニーはチューバの音で

つぎのような各パターンでもやってみましょう。

8分音符 3連符 16分音符 符点リズム

リズムやテンポが合うだけではなく、発音の形、音のしゃべり方がバンド全体で合うように気をつけます。また、テヌート、スタッカート、マルカートなどいろいろなアーティキュレーションでもやってみましょう。

そして、基礎合奏スケールの各調17小節目~24小節目の4分音符と8分音符の音階、分散和音の練習も、テヌート、レガート、スタッカート、マルカートなどいろいろなアーティキュレーションでやって、基本となる音符の形をバンド全体で合わせていきましょう。

おわりに

以上、いくつか基礎合奏のやり方を示してみましたが、各バンドに必要と思われるもの、有益と思われるものを取捨択一して、基礎合奏のメニューを組み立ててみてください。もちろん元の楽譜のままにやるのもいいと思います。また、基礎合奏の最後に簡単な曲（基礎合奏のテーマ曲）などをやるのもいいと思います。応用編として雑書『バンドのためのトレーニング“Harmony Relay”』を利用されるのもいいと思います。当ホームページの『作曲／編曲／著作などのご紹介』の中に紹介してあります。

基礎合奏は耐久レースではありませんので、ひとつのエクササイズ、ひとつの調が終わったら、音を出していない時間もある程度入れるようにしましょう。また、バンドによっては初期段階では、ある程度大きな音を出させることも必要かもしれません。が、いつまでも『大きな音を出せ』だけが主目的の基礎合奏ではなく、バンドとしてのサウンドづくりに主眼を移していきましょう。

打楽器については一応譜例にパターンを示しましたが、各バンドでいろいろと工夫してみましょう。また、管楽器が基礎合奏をしている間、打楽器は別室で基礎打ちをすることも、ひとつの方法だと思います。

各バンドそれぞれに自分たちの基礎合奏をみつけていってください。そして自分たちのサウンドを確立し、そこからすばらしい音楽が奏でられていくことを期待しています。また、バンド指導などいつでも承りますので、お気軽にメールなどでご相談ください。

ホームページアドレス <http://ip.tosp.co.jp/i.asp?l=trb293>

Twitter <https://twitter.com/fukurou293>

トロンボーン、作編曲、バンド指導／福見 吉朗